

03-2 褥瘡予防に向けたトイレ座位姿勢の検討

○山谷友範

アール・ケア

キーワード:褥瘡、トイレ、座位保持

【背景・目的】在宅生活を営む高齢者にとって褥瘡予防は必須課題である。今回、訪問リハを担当した症例の褥瘡予防に向けたトイレ座位姿勢の修正において知見が得られた為、報告する。

【倫理的配慮・利益相反】この報告においては対象者家族への報告の同意を得ている。また開示すべき COI 関係にある企業等はない。

【事例紹介】90 歳台. 女性. 要介護 5. 病歴:うつ病(H9~). 身体/認知機能:座位バランス不良も保持可能. 左大転子部褥瘡あり(DSIGN-R®:d1). 日中, 夜間とも不穏状態. ADL:全介助状態

【作業療法評価】痩せの為, トイレ座位時に便座口に座骨が落ち込み, 大転子部に圧迫が引き起こされた状態であり, 褥瘡悪化のリスクが高い。

【作業療法計画】便座口の狭小化, 座骨結節を支える支持面を追加するための座位保持装置を作成することで座圧を分散, 大転子部の圧迫を軽減し安定した座位を保つ。また介助者へ適切な座位姿勢の確認方法と, 良姿勢獲得に向けた介助方法について助言を行う。

【介入経過】座位保持装置により大転子部の除圧が図られ, 座位姿勢も安定した。

【結果と結語】座骨落ち込みによる不安感からトイレ座位時に精神状態が悪化傾向であったが, 介入後呼吸状態も安定, 興奮も軽減した。痩せ気味の高齢者において同様のケースは多く認められ, トイレ座位姿勢を評価し, 適宜適切な介入を行う事で褥瘡の予防に繋がるものとする。